

13の徳目

2022.11.8

ここに5冊のノートがある。ノートと言っても市販されている中で最も小さなサイズである。手帳と言ったほうがよい大きさである。私の名言記録ノート、名言手帳である。そういえば、最近記録していないなど、何気なくページをめくってみた。このノートに書かないということは、それだけインプットしていない、本を読んでいない、情報に触れていないということである。

「ベンジャミン・フランクリンの13の徳目」が目にとまった。13の徳目とは、アメリカの実業家、政治家、思想家、そして物理学者、気象学者、発明家でもあるフランクリンが、自らが道徳的で模範的な人間となるために必要と考えた13の徳について、その実践を行う工夫を具体的に記述したものである。完璧な道徳人を志した若き日のフランクリンの考案によるものである。

- 1 節制 頭や体が鈍くなるほど食べないこと。はめをはずすほどお酒を飲まないこと。
- 2 沈黙 他人あるいは自分に利益にならないことは話さないこと。余計な無駄話はしないこと。
- 3 規律 自分の持ち物はすべて置き場所を決めておくこと。仕事は、それぞれ時間を決めて行うこと。
- 4 決断 なすべきことはやろうと決心すること。決心したことは必ずやり遂げること。
- 5 節約 他人や自分に役立つことのみにお金を使うこと。すなわち無駄遣いはしないこと。
- 6 勤勉 時間を無駄にしないこと。いつも有益なことに時間を使うこと。無益な行動をすべてやめること。
- 7 誠実 騙して人に害を与えないこと。清く正しく思考すること。口にする言葉も、また同じ。
- 8 正義 不正なことを行い、あるいは自分の義務であることをやらないで、他人に損害を与えないこと。
- 9 中庸 何事も極端でないこと。たとえ相手に不正を受け、激怒するに値すると思っても我慢したほうがよいときは我慢すること。
- 10 清潔 身体、衣服、住居を不潔にしないこと。
- 11 冷静 つまらぬこと、ありがちな事故、避けられない事故などに心を取り乱さないこと。
- 12 純潔 性の営みは、健康のためか、子供をつくるためのみにすること。性におぼれ、なまけものになったり、自分や他人の平和な生活を乱したり、信用を失ったりしないこと。
- 13 謙譲 イエスとソクラテスを見習うこと。

すべて今の時代に当てはまる。見事である。フランクリンは、1706年生まれのアメリカ合衆国の人である。凧を用いた実験で、雷が電気であることを明らかにしたことでも知られる。13の徳目のようなものは、古の時代から洋の東西を問わず、賢人偉人たちが遺している。フランクリンがすごいのは、その実践方法である。 (次号に続く)